

ポルタ SCC-Q(迅速生乳内体細胞検査紙) 取り扱い説明書

検査手順

検査対象の生乳を入れる小型ボトルを用意する。
このボトルと検査紙双方に番号を記入する。

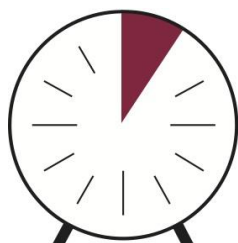
- 検査する生乳を、番号が記入された清潔なボトルに入れる。入れた後よく攪拌のこと。



- 添付のピペットを用いて生乳をボトルから吸引し、これをサンプルとする。その4滴を、ボトルの番号と同一番号の検査紙の円形凹みに滴下する。その際、一滴毎に検査紙に浸み込ませる。



- 次いで直ちにサンプルが浸み込んだ円形凹みへ添付の反応液を4滴、滴下する



5～6分放置する。



- 添付のカラーチャートと検査紙の円形凹み部の変色と比較し、サンプル(生乳)内の体細胞数を読み取る。



- 未判定まま規定時間より長く検査紙を放置しないこと。時間経過とともに変色が強くなり、正確性が損なわれるため。

注意事項

- 初乳又は乳房炎症状(つぶつぶ、変色等)を示す生乳を混入させないこと。このような生乳を含むサンプルは円形凹みに十分浸み込まないため。

- 検査は採乳後直ちに実施するのが望ましい。冷蔵保管される場合には8時間以内に検査を行うこと。バルクタンクの生乳を検査する場合は8時間以上経過した生乳が混入していないことを確認のこと。

- サンプルが冷蔵保管された場合、室温まで戻し、検査を実施のこと。

- サンプルは必ず添付のピペットにて取り扱うこと。正確な量のサンプルを採取、滴下するため。

- サンプルを滴下する際にはピペット先端を絶対に検査紙に触れさせないこと。もし触れた場合には新しい検査紙を使用すること。

- サンプルに保存剤(プロノボル等)が含まれている場合には、正しく変色しない。

- 残留抗生物質は検査に影響しない。

- 検査は、直射日光を避け、室温7℃～35℃でおこなうこと。

- 検査紙、反応液は2℃～25℃で保管のこと。冷蔵庫での保管が推奨される。

- 複数サンプル検査で2番目以降のピペット操作
まず既使用のピペットのバルーンを数回押しピペット内に残った前回のサンプルを吹き出す。
次に検査する生乳の入ったボトルにピペットの先端を入れてバルーンを3～4回押しピペット内で生乳を吸排し、次いでサンプルを吸引する。

- 検査紙は開封後4時間以内に使用すること。

- 本検査紙は生乳品質の自主検査を目的としており、最終判定は公定法に基づく検査によります。又診断用として使用することはできません。

輸入販売元

(株)川崎生物科学研究所 東京都目黒区中根 2-10-2 TEL:03-3717-0818